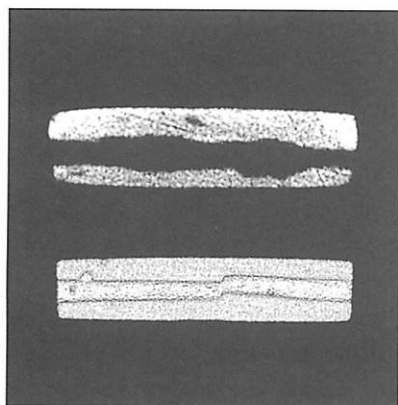


これらは階層差を反映している可能性  
があることが判明した。また、その規  
模・構造は集落の倉と類似しており、  
穎稲収納を基本とし、収納稲が家長の  
強い管理下にあったこと、を推測でき  
た。

#### ■光学的解析法による古代ガラスの加工 法等に関する研究

代表者 肥塚隆保 新規

古代のガラスは各種類の材質のものが  
知られている。弥生時代や古墳時代の  
遺跡から出土するガラスは、製品や一  
次製品（ガラス塊や板状のガラス）と  
して輸入され、日本国内において加工  
された。弥生時代を代表するガラスと  
しては鉛バリウムとカリガラスがあり、  
前者はいわゆる加熱による「溶融法」  
により成形されていたのに対して、  
カリガラスの管玉は加熱によらない  
「乾式法」により成形されているもの  
が多数発見された。写真（上）は鉛バ  
リウムガラスの管玉であり、何らかの  
芯に粘土などを剥離材料として使用  
し、これにガラスを巻き付けた痕跡が  
残っており、管引きされたものではな  
い。いっぽう、カリガラス写真（下）  
は石製の管玉に見られるように穿孔さ  
れた痕跡が残存しており、両者におけ  
る加工方法は明らかにことなっている。  
これら、乾式法によるカリガラス  
管玉は北部畿内から山陰、北陸地域に  
分布し、九州地域には見られない特徴  
を有するものである。今後、加工方法  
に関する詳細な研究はガラス製品の流  
通を研究する上でも重要となる。



高エネルギーX線CTによる3次元画像

#### ▲奨励研究（A）

##### ムラの場合、ハカの場合 GISを利用した古 墳時代集落・古墳の立地選択の研究

代表者 金田明大 新規

古墳時代集落、および古墳の立地選択に  
おいて、その嗜好性がどのようにあらわ  
れているかを検討することを目的として  
いる。遺跡の立地条件を検討する上では  
地理情報システム（GIS）を利用するこ  
とが有効であると考えられ、利用のため  
の技術的、方法的な検討を兼ねて、研究  
を進めている。

本年度は岡山県上房郡北房町域の盆地内  
を検討地域に選定し、古墳を中心とした  
踏査、および分布調査をのべ3回おこな  
った。また、3基からなる才田古墳群に  
ついて、周辺測量をおこなった。加えて  
周辺観察から方墳と考えられる才田1号  
墳については横穴式石室の実測もおこな  
っている。

#### データベース

##### ▼二条大路木簡データベース

代表者 町田章 継続

長屋王家木簡データベース作成グループ  
は、長屋王家木簡に引き続き二条大路木  
簡についても、94年度以来研究成果公開  
促進費（データベース）の支給を受け、  
文字情報と画像情報をリンクさせたデー  
タベースを作成すべく、入力作業を継続  
している。97年度は14,550点の入力作業  
を行った。二条大路木簡は約74,000点に  
のぼるが、そのうち58,000点余の入力が  
終わり、98年度で入力作業は完了する予  
定であり、また同年度中に釈文既公開の  
木簡については、このデータベースを公  
開すべく準備中である。



旧倉吉町ポンプ室（倉吉市）

## 調査研究彙報

#### ◆名勝旧大乘院庭園の整備

（財）日本ナショナルトラストが国庫補  
助を受けて実施する名勝旧大乘院庭園  
の整備は七ヶ年計画の五年目になる。  
今年度の整備に関係する重要な発掘調  
査の成果としては、庭園東北部の地形  
が近代の造成によって大きく改変さ  
れ、池の汀線が大きく北方へ後退する  
ことが判明したと、北中島にかかる  
中世の橋脚・橋台部が確認できな  
かったことである。（年報1998-II p.参照）

先の調査成果を受けて、大量の近代  
盛土の範囲を推定するために次年度に  
発掘調査の負担を軽くするためにもボ  
ーリング調査を実施し、江戸時代末期  
の汀線の推定を行うこととした。整備  
事業は、仮設搬入路部分を除いて東岸  
の洲浜を20m分程整備した。整備手法  
は、池南岸と同様である。

（加藤允彦）

#### ◆鳥取県の近代化遺産調査

2ヶ年計画の第2年次。本年度は、鳥  
取市および倉吉市を中心とする2度の  
詳細調査と補足調査を実施した。この  
うち、倉吉市郊外にある小川酒造は、  
外壁にコリント式オーダーの柱を配し  
た応接間をもつ主屋と、数棟の酒蔵を  
広大な敷地に建てならべたうえ、背面  
を流れる鉢屋川の清流を引き入れた別  
邸「環翠園」をつくる。鉢屋川は数百  
m下流にある旧倉吉町水源地ポンプ室  
（左図）まで続き、昭和初期に帰国家  
族が住みついて「倉吉のアメリカ村」  
と呼ばれた余戸谷町の町並みともあい  
まって、この付近は倉吉の近代を重層  
的に映し出している。これらの調査結  
果は、報告書として刊行した。

（箱崎和久）